

藤沢

2016年12月1日

第271号

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議
(略称) 藤沢エコネット



主
な
記
事

- ・海から生まれた命
- ・環境悪化の歴史 ・環境フェア開催
- ・大気汚染NO₂ 測定とぜん息
- ・気象情報ジェット気流にまつわる話6

<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎ / F A X 0466-87-4922

未来は選び取るもの エネルギーの地産地消を進めよう！！ 環境フェア成果の発展を

藤沢市は、2022年までに、CO₂排出40%削減の先進的な目標を掲げている。これまで環境フェアで温暖化対策について市民への啓蒙に努めてきた。今年の環境フェア開会挨拶で、市長は2020年東京オリンピック会場である江ノ島の環境がきれいなことをアピールしたいと述べた。

11月の初雪、東京で54年ぶり、11月の積雪は観測史上初、夏の不順な天候と8月の熱帯低気圧・台風の多発など、異常気象が起きている。これは、温暖化と深く関わっている（森正人他、nature Geoscience, 2014）。温暖化は確実に進行している（検索：直面する地球環境変動の予測と診断）。温暖化の影響が私たちの生活と暮らしに深く関わっていることに疑う余地はない。

温暖化を止めるため、パリ協定が発効し、化石燃料に頼らない。再生可能エネルギー中心の社会をめざし、世界は「低炭素」から「脱炭素」に舵を切った。

日本では、パリ協定の批准が遅れ、原発再稼働が進められようとしているが、日本のエネルギーの将来を原発に依存してよいのだろうか。

神奈川県は、原発に過度に依存しないことをめざした「再生可能エネルギーの導入等の促進に関する条例」（2013年7月議会可決＝全会一致）、「原発に過度に頼らない」、「環境に配慮する」、「地産地消を推進する」の3原則による「かながわスマートエネルギー構想」策定、知事は「分散型メガソーラー」を提唱し、2030年度までに県内の電力消費量の45%を消費地の近くで発電する分散型をめざしている。

藤沢市環境基本計画と地球温暖化対策実行計画見直しが進められ。パブコメが終了、パリ協定発効を受け、市民と一体となり実効性ある施策の強化が求められている。さらに、昨年2月に決定した「エネルギーの地産地消推進計画」を進めることで、東京オリンピックヨット会場の江ノ島を訪れる世界の人々に「脱炭素をめざす環境先進都市藤沢」をアピールできればと願う。（宮地俊作）



環境フェアで藤沢エコネットのブース



にぎわいの中に藤沢市のゆるキャラも登場

海から生まれた生命

「湘南のなぎさを守る藤沢市民の会」主催、藤沢エコネット協賛で11月に、講演会を開きました。

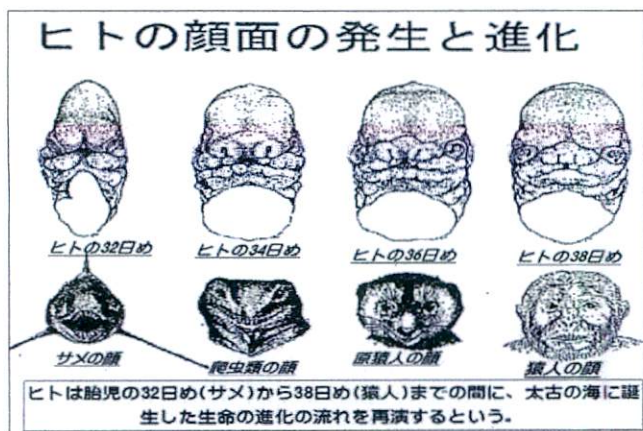
講師は後藤仁敏さん（鶴見大学名誉教授、専門は古生物学・解剖学、九条かながわの会事務局長）で“海から生まれた命～血液・骨・人体とリズム”です。話しの要旨は以下のようなものでした。

「海に生まれた生命は、海水という環境を体内に取り込んで血液やリンパの血漿とし、また海水のミネラルを骨として体内に貯蔵し、必要に応じて血液にとかしたり、血液から骨として貯蔵したりして、人体を構成しています。さらに、地球の自転や月や太陽の動きによって起こる海の波や潮汐のリズムは、心臓の拍動や呼吸のリズムとして体内で再現され、地球と宇宙のリズムと共鳴しています。しかし、そのいとなみやリズムは今、人間社会の機械化により、さまざまな変調を起しているように感じられます。」

講演の最後に、人体の不思議に驚いた参加者からたくさん質問がありました。

人体の不思議を理解するために、一冊の本を紹介してもらいました。“胎児の世界—人類の生命記憶（中公新書）—三木成夫”です。早速買って読んでみました。

人間が受精してから出産に至るまでの期間、お母さんの胎内で「生物の進化の歴史」を辿って来ているということです。僕らの祖先が海の魚だったということだけではなく、受精から出産に至るまでの胎児の間に僕ら自身が魚である瞬間があったということです。つまり僕自身が生物の進化を胎内において、自ら経験してきているということです。（下図）



確かにこれを書きながら尻を触ってみても、そこには尾てい骨がある。尻尾が有った時代を自らの体に残しているわけです。あと数万年したら、こんな骨も無くなっているのかも知れません。

（「湘南のなぎさを守る藤沢市民の会」本阿弥光彦）

環境悪化の歴史

～日本の公害問題の原点・渡良瀬川と足尾銅山

公害を考えると、一番初めに思い当たることは、小中村・名主の子として生まれた田中正造で、父の跡を継いで17歳で名主となった。（生まれは天保12年、1841年で明治維新の28年前）30歳で江差県の下級官吏となる。上司の殺人事件に巻き込まれ入獄。獄中で「西国立志編」を読む。嫌疑がとけ釈放。小中村に帰る。“獄中も勉強するには最高なり”とばかり、当時の若者のベストセラーを読みあさる。

36歳の時、西南戦争がおきる。

江戸時代より足尾は銅山として小規模だったが、古河市兵衛が経営をはじめ、10年間で足尾銅山生産量日本一になる。当時日本は欧米に追いつけ、追い越せの気風が強く、洪水で魚が死のうが、人が犠牲になろうがおかまいなし。軍需品の原料、銅は脚光をあび続けた。

渡良瀬川は、かつてなかった洪水にたびたび見舞われ、漁業、農業とも立ち行かず、近隣農民のくらしは悲惨を極めた。



（1964年サンケイ新聞）

栃木県会議長の田中正造は、帝国憲法発布の式典に参

列。50歳第1回総選挙で衆議院議員に当選した。

“吾妻村、公益に害あり”と足尾銅山操業停止を国会に上申。この言葉が公害の原点になった。年に3回もの洪水に、ついに農民による押し出し（農商務大臣・

田中正造38歳は政治を志し、栃木県議員となり、農民を苦しめる圧政と闘う決意をする。私産を処分し、染色の原料・あい玉を作り活動資金をつくった。渡良瀬川の洪水はますます大きくなった。足尾の山々が鉱毒で木が枯れ、保水力がなくなった事によると思われる。



（紙芝居「田中正造」直訴場面）

榎本武揚に請願）始まる。

毎日新聞が足尾銅山問題を連載。農民の立場を広く伝える。今の政治家に「つめのあか」でも飲ませたい。田中正造議員は国会議員を辞職し、明治天皇に直訴し、その場で無礼討ち死にを覚悟した行動に出ざるを得なかった。時は日露戦争始まる直前の事。（つづく）

（国枝健）

大気汚染(NO₂)の測定とぜんそく

藤沢の空気を考える会でおこなった6月の大気汚染を調べるNO₂簡易測定結果は、平均0.026ppmでした。環境基準(0.04~0.06ppm以下)はクリアしましたが、以前の環境基準(0.02ppm以下)は超えていて、ぜんそくは減っていません。小学生のぜんそく罹患率は平均9.4%です。

毎年6月は12月より空気がきれいです。また、今夏は雨となり、雨が降ると大気はきれいになります。

藤沢市 NO₂ 測定結果の地区別集計(ppm)

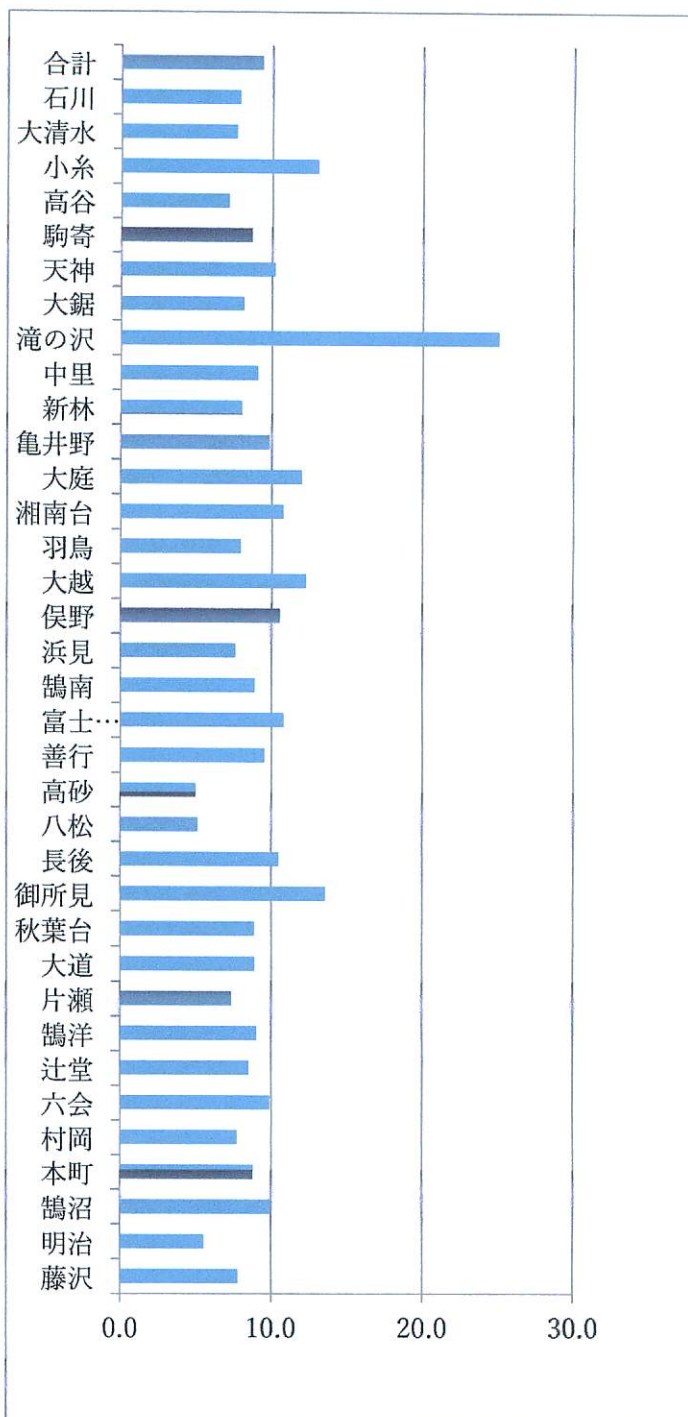
(藤沢市空気を考える会)2016.6

	件数	道路沿	件数	非道路	件数	合計(平均)
1 片瀬	7	0.028	5	0.012	12	0.021
2 鶴沼	6	0.039	10	0.014	16	0.023
3 辻堂	3	0.016	14	0.013	17	0.013
4 村岡	2	0.016	5	0.016	7	0.016
5 藤沢	17	0.061	3	0.012	20	0.054
6 明治	9	0.019	1	0.007	10	0.018
7 善行	7	0.041	4	0.016	11	0.032
8 湘南大庭	6	0.029	5	0.012	11	0.040
9 六会	4	0.020	8	0.017	12	0.018
10 湘南台	6	0.029	15	0.026	21	0.027
11 遠藤	1	0.009	8	0.009	9	0.009
12 長後	5	0.041	1	0.008	6	0.035
13 御所見	4	0.029	13	0.035	17	0.018
全地域(平均)	77	0.036	92	0.018	169	0.026



〈低炭素都市ふじさわをめざして〉

藤沢市内小学校ぜんそく罹患率(H28 学校保健統計より)



第21回 ふじさわ環境フェア

晴天に恵まれた今年の環境フェアは 11 月 12 日(土)に藤沢市民会館で開かれました。

参加団体は 41 団体、そのうち企業が 13 団体、展示は第一、第二展示ホールで、外は食物や飲物の出店と展示などの紹介、資源回収のリサイクル品を販売などのコーナーもありました。クイズラリーでクイズに挑戦し商品をゲット、熱心に展示の説明を聞く姿もありました。

ECONET INFORMATION

ジェット気流発見にまつわる話し

(シリーズ (6. 突発現象か?)

大石が1924年(大正13年)12月2日10時(地方時)に実施した観測で、高度1^{km}以下のごく地上付近では東風で風速は秒速数^{m/s}だが、それより上層では西風に転じて風速が徐々に増大し、対流圏の中層の高度5^{km}で秒速30^{m/s}、高度9^{km}付近で秒速70^{m/s}以上の強風となることが明らかになった。

彼は図を描きながら、さぞ驚いたことだろう。この現象がはたして観測時のみに発生した現象なのか定常的な現象なのか、誤った観測結果ではないのか、大石は自問したに違いない。

これに対する答えが明らかになるまでにはそう長い時間を要しなかった。判断の根拠となる成果は1926年に発表された。

大石は上層観測結果を季節ごとに重ね合わせた図を作成したが、解析のもとになったのは1923年3月から1925年2月までに実施した1288回の観測の結果である。多くのデータを使い、季節ごとの平均風速と風向の鉛直分布図を描くことができた。

上層に現れた西風には次の特徴が認められた。冬季の風速は他の季節と比べて非常に強く、高度10^{km}で約70m/sに達した。これに対して夏季は風速が弱まる。春季と秋季は両者の中間程度の風速となった。冬期に現れる強風は、当時上空で観測した強風に関して推測されていたような変則的かつ短命な現象ではなく、日本上空で安定して出現することが示唆されたのである。(つづく)

林 陽生(NPO シティ・ウォッチ・スクエア理事長)

放射能測定値

(HORIBA Radi) 単位($\mu\text{Sv/h}$)

11月中に測定(地上50cm)

鵜沼藤が谷 住宅地	0.043
六会犬久保公園	0.036
〃 多目的広場	0.034
石川児童館入り口	0.038
石川コミセンター入口	0.041



【自然エネルギー発電所は未来への投資】

講演 田中 優さん(未来バンク事業組合理事

長・日本国際ボランティアセンター理事)

参加費 500円

12/11(日) 14:30-

名店ビル6階ホール

(一社)ふじさわサンエナジー 090-6186-0452



「辺野古 圧殺の海第2章」上映会

12/8(木) 18:30-

12/9(金) 10:00- 13:30-

場所 ふじさわカトリック教会ホール

(藤沢駅南口徒歩5分)

前売券 500円 当日700円

連絡先 吉塚 090-7949-9854

冬季NO2測定 12/1(木)~12/2(金)

24時間簡易カプセルにより測定

「アジアから危惧されている今の日本」

講演 高嶋伸欣さん(琉球大名誉教授)

証言 鄭 来さん(マレーシア)ほか

12/11(日) 15時 神奈川県民センター

主催 アジア・フォーラム横浜 証言集会

藤沢エコネットから

◆会員募集=年会費・購読料→2000円

ゆうちょ銀行 (9900) 店番 (029)

当座預金 004650173 サイネット

◆事務局会議12月9日(金) 13:30~

市民活動推進センター

《編集後記》12月8日は71回目の終戦記念日。今年のグッドニュースは国連総会・委で核禁止条約の交渉会議が来年ニューヨークで開かれる決議が採択された事。日本は反対38か国の側。しかし「平和首長会議」(世界162か国7164都市、国内1643都市加盟)は核兵器禁止の要望書を11月日本政府に提出した。平和条例を持ち、平和首長会議に加盟している藤沢市も積極的な平和外交を望みたい。(A)